

令和6年度 第1回 熱海市総合教育会議 会議録

1. 開催日時：令和6年6月6日（木） 15時00分～16時20分
2. 会 場：熱海市福祉センター3階 大広間
3. 出席者：【構成員】市長[議長]・教育長・教育委員3名
【教育委員会事務局】事務局長・学校教育課専門監2名・学校教育課長・生涯学習課長・図書館長・教育保育推進室長・総務管理室長
【首長部局】金井副市長・吉徳副市長・経営企画部長・経営企画部次長・企画財政課長・企画室長・企画室主幹・企画室主任
4. 議事要旨：以下のとおり。

（1）開 会

（2）市長あいさつ

開会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げます。まず本日は大変お忙しい中、令和6年度第1回熱海市総合教育会議にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。日頃から熱海市の子供たちの教育の充実と発展に多大なるご尽力を賜っておりますことを心から感謝申し上げます。

さてご案内のことですが、今年度より、昨年度まで教育委員を務めていただいております水野秀司さんに、新たに教育長としてご就任をいただきました。総合教育会議も新たな体制でスタートという形になります。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の議題であります。まず、千葉縣市川市立塩浜学園における小中一貫教育の推進に関する視察報告という議題で、昨年11月に市教育委員会で行われた視察結果についてご報告をいただきます。次に、南熱海地区の就学前児童施設の再編についてという議題で、南熱海地区の幼稚園、保育園施設の現状と今後の方針について。協議をして参りたいと考えております。これらの議題につきまして出席の皆様と自由な意見交換を行い、お互いに意思の疎通を図り、教育行政の推進を図って参りたいと思いますので、皆様の活発なご意見をよろしくお願い申し上げます。

（3）議事

①市川市立塩浜学園における小中一貫教育の推進に関する視察報告

教育保育推進室長から資料1-1、資料1-2、資料1-3に基づき説明がなされた。

【質疑等】

（教育長）

視察された教育委員の皆様にお1人ずつご意見をいただければと思いますが、いかが

でしょうか。

(A委員)

よろしく願いいたします。そうですね感想と申しますか意見を一つよろしいでしょうか。

まず学校規模、立地条件が果たして本市とどのくらいかかぶるのか、同じところがあるのかという目線で見えて参りましたけれども。やはり、塩浜学園は同じ小中のなかでも千葉県という人数もここよりはずっと多い、そしてもっと言えば、いろんな学校を選べる選択肢がある私立の方まで含めれば、かなりの選択肢を持つ地域ということで、どこまでが参考になるかなと思いました。ですが、実際に拝見してみますと、ここに今のご報告にありますけれども、子供たちの感じ、先生方の感じっていうのも、あまりもう年数が経っているから困っている感じはあまりなく、穏やかに動いているなっていう感じはいたしました。そしてとても敷地も広く、そこをまた子供たちが生き生きと使っている、そういう状態はとても好ましいものと思いました。

私これは個人の意見ですけれども、今後これからですけど、もう5年10年もっと先を考えますと、どうしても子供の数、それから、それに伴いまして、先生方の数、きっとこれから先減り続けていくんだろうなと思うときに、今のような学校の形態、小学校中学校の数で、どこの学校に行っても、すべて1クラスどころか、2学年が一緒になるようなそういう状態ができてしまうことがいいことなのかなっていうのは、かなり深く思った次第です。

そういうことを考えましてもデメリットも数々ありますが、私としてはやはりこちら小中の一つの校舎の中で、9年間、少しでも多くの子供たちの中でする教育というのは学力以上に何か得るものがあるのではないかなと思った次第です。

(B委員)

見てみまして、非常にうまく進んだのかなという感想を受けました。いただいた資料を見ますといろんな保護者の声とか、地域の声を見ますと、開校までは非常に不安の声が多かったようです。うまくいくのかどうか。これがやっぱり一つの大きな懸念であると思いますけれども。実際しっかりとしたコンセプトを持ってこういう学校をつくりたいというものと、先生方の力もありますし、子供たちの頑張りもあります。それから校舎自体もA委員がおっしゃったように、うまく学校の仕組みに合わせて作られているんですね。先ほどありましたように各階もそうですし、スペースなんか縦割りとかで使えるようになっていたり、それからグラウンドも広く取っていたりという、熱海では無理なような土地柄、そのような環境のこと、それから先ほども出ましたように、他の多くの学校があるということで自転車で結構時間をかけて学区外から来ている子もいますけれども、それも熱海では無理です。何かそのようないろんな面が合わさって、うまく進んだなと。開校してからの意見を聞きましたら、とてもよかった、それまで心配されていたようなことがかなり解消できて、期待を持たれているっというのを受けました。本市にとってはどうだろうかと思いましたけれども。義務教育学校としたときに、小中9年間で柔軟に組めるということで、学力面ではかなり効果が見られる可能性はあるかと思います。ただ、この学校のように小1中1ではないよ

うにできればいいんですが、多賀を考えた場合に小1中1だと果たしてどれくらいメリットが出てくるのかなってというのが気にはなりました。とにかくメリットデメリットはいろいろあります。解消できないものもあります。それを、どこまでこう練っていけるかなというのが、進めていく上で、重点になってくるなと思いました。

自分は3点気にしていることがあります。一つ目がもう先ほどの中にもすべて出ていましたけども。小学校6年生の意識はどうだろうかと。卒業式がありません。ということで今までみたいに、小学校6年間頑張ったね、卒業証書もらったね、おめでとう。それから中学に入って心機一転頑張ろう、っていうのがないです。で、ここにいらっしゃる皆さんそうですけど、そういう体験をしたことは誰もありません、となるとそういう新しい体験は必ず拒否反応が出ますよね。そこら辺をどうやって新しくわかってもらえるかっていうのがすごく大きなところかなと思います。二つ目が小6のリーダーシップでありましたけども、今どこの学校でも6年生が中心になって一生懸命やっていますが、それがなくなる。果たしてこれはどうなのかなという気がいたします。三つ目が教員のことでですけども、先ほど出ましたように、ゆくゆくは小中免許を持っている教員になるようですが、となりますと、小学校の免許を持ってない中学校教員はそこに行けないことになるんですね、特に現状中学は教職課程でとって、小学校の免許を持ってない教員もかなりおります。熱海市は大きく言うと熱中と多賀中だけです。もし南熱海が一つの学校になったとすると、熱海市の半分は、中学校は小学校の免許を持たなきゃ駄目ということになります。となると教員採用する時に何か不都合が起こるのではないのか、もっと言いますと、熱海市で勤めたい中学校の先生は、大学を選ぶときに、教職養成の学校じゃなくなれない、ということになるかなということも出てくるかと思います。そんなこともあります、それらをすべてひっくるめて、十分にいろんな意見を練っていかないと。とてもいいところなんですけども、心配かなと思います。あわせて早めの子供、保護者、地域への周知徹底ですか、これがとっても大事だなと。塩浜学園の進め方を見て感じました。以上です。

(C委員)

私も同様に、熱海でもし導入した場合という点も含めて、地域的なところと比較しながら拝見させていただきました。施設としてやはりもう第一印象は土地がとにかく平らで広くて、校舎内、廊下の両側に教室とかお部屋があるんですけど、校舎内自体に木材がたくさん使われていて温かみがある。両側にあるけれども、吹き抜けがあったりして全体的に明るいという、本当に伸び伸びと過ごせるな、という印象を受けました。設立にあたって準備段階から反対意見の多い中、地域、周辺地域の方とものすごくよく対話され、先生方も勉強会されているということをお聞きしまして、本当にみんなで作っていく学校として作られてきたんだなという印象です。東日本大震災の時に、液状化現象でガスも水道も止まってしまったという教訓があったということで、ふるさと防災課を設立されていて、普段から地域を知る、愛着を持つ、大きい学年は自ら考えて災害のときにどういうふうに行動するかという、養う力をできるようなカリキュラムになってましたんで、そういったことも含めて、普段から地域との繋がりを継続的に持っている、学校自体ができる前から継続的に持っていて、子供たちが地域

の一員として意識を持つようになっていたのが特に印象的でした。その成果が子供たちがすごく生き生きとしたような表情が見れたように、本来子供ってこうなのかなと思うような印象を持たせていただきました。学習の方なんですけど、説明もいただきましたが、小学校5，6年生から中学校の授業スタイルに慣れるということとか、部活動に参加できるというのは、中学3年間では習得できない技術を早くから学べるっていう点ではメリットだったり、中1ギャップがないっていうのはすごくいいなと思う反面、やはり皆さんおっしゃったように、小学校6年生のリーダーシップが育成されないこととか、あとは、Mブロックの行事とかが煩雑だったり、それによって先生方のご負担が多いのではないかな、というところを感じました。子供時代の9年間で人間関係が固定化されてしまう、これは今の熱海にも同じようにいえることではあると思うんですけど。実際に導入するには、他の学校との繋がりも含めて、子供たちの学びですとか心身の成長のためにも深く検討する必要があるのかなと思います。

(教育長)

ただいまの事務局の説明と委員の皆様からのご意見をいただいた通りなんですけれども、教育課程を考える際にですねやっぱり生徒児童の教育条件をより良くする目的で行うべきということは当然だと思います。塩浜学園に視察をさせていただいた印象は皆様と同じですが、特にその規模の学校の敷地の広さと校舎の使い勝手の良さみたいなものはとてもよく感じましたし、子供たちが生き生きとあそこで学んでいる姿もとても素晴らしいと。また地域の皆さんとの交流を含めた事前の準備も含めてとても良い。いい学校に仕上がっているというか、いい学校だなというふうに思いました。ただ43億円のお金がかかって作ったということとか、様々な小中一貫教育を導入することでデメリットメリットがあるわけです。特に、小学校の教科担任制というのが、小中学校を通して先生方が交流をしてくださって、早めに授業が進められており、とてもいいことだなとは思いましたがけれども、文科省の方で小学校3年、4年からも教科担任制を進めていくべきというお話も進んでおりますので、それを考えますと、今優位性についてはですね少し劣ってくるかなというふうな感じもしております。委員会の先ほどの所感にもございましたけれども、今後さらに委員の皆様にご意見をいただきながら検討を進めていくべきだな、というふうには思っております。

(市長)

教育長が大分サマライズしてもらったようなんですけれども、委員の皆様からほかに、さらに付け加えることをございますか。よろしいですか。今回視察に行かれて、その報告ということで今ご意見をいただきましたが、熱海市にとってのメリットデメリットをさらにきちんと議論して方向を決めるべきであろうという、現時点ではそういう大きな方向だと思います。これは市の教育方針にとって非常に大きな点ですので、この小中一貫教育については、引き続きメリットデメリットを整理しながら、この方向にいくのか、いかないかということを、引き続き検討をさせていただきたいと思います。今日は、そういったところでよろしいでしょうか。

②南熱海地区の就学前児童施設の再編について

教育委員会事務局長より資料2に基づいて説明がなされた。

【質疑等】

(C委員)

はい。ご説明ありがとうございます。私の方から18ページに施設規模の定員ということで挙げていただけてますけど、現状について教えていただきたいんですが、和田木保育園と多賀幼稚園には4月現在で何人ぐらい入園されてるのか教えてください。

(教育委員会事務局長)

和田木保育園には0歳児が2名、1歳児が9名、2歳児7名、3歳児12名、4歳児13名、5歳児10名の53人。多賀幼稚園には3歳が3人、4歳が8人、5歳9人の20人が通園しております。合計73人です。

(C委員)

ありがとうございます。引き続きいいでしょうか。印象として多賀幼稚園の在園児数が年々減少しているように思うんですけど、幼稚園児数の確保のために何か具体的な行動っていうか計画とかされてますでしょうか。

(教育委員会事務局長)

ご指摘いただきました通り、多賀幼稚園の園児数は、令和元年度では49人、2年度では39人、3年度では40人、4年度36人、5年度30人、6年度20人と減少し続けています。そこで今年から満3歳児から入園できるように、園の規則を改正しまして、満3歳になった翌月から入園可能とすることで、園児数を確保したいと、そのように努めています。

(C委員)

ありがとうございます。実際に満3歳児から入園可能とされてるかと思うんですけど。実際にどのくらいの入園がありましたでしょうか。

(教育委員会事務局長)

はい。5月において2人入園いたしました。現在の多賀幼稚園の在園児数は20人と見込んでます。また、今後に入園する予定の人数を園から聞いているところ、6人程度が入園をするのではないかと、というお話を伺っております。ですのでその人数を入れますと総合計で28人ぐらいになっていくと思います。

(C委員)

引き続きお願いします。先ほど多賀幼稚園の園児数をお聞きしたんですけど、和田木の方はいかがでしょうか。ぜひ教えていただきたい。

(教育委員会事務局長)

はい。和田木保育園の園児数はですね、令和元年度で60人、2年度で54人、3年度は53人、4年度58人、5年度53人、6年度も53人でほぼ横ばいで推移しております。今後も保育園の入園希望は、幼児数が減少してもほぼ横ばいで推移していくのではないかと考えております。

(B委員)

ご説明ありがとうございます。先日ですね、委員の皆さんと園訪問させていただい

て、そのときの感想と、それから質問をあわせてお願いしたいと思います。まず、中に入って第一印象が、光と空間がない、です。狭いのはもうわかってたんですけども、室内が何か暗くて、そして、ちょうどお昼ぐらいたったですかね、子供たちが食事をしている横で遊んでる子供たちがいて、そこを通れないからベランダが通路になっているとか。園庭も走ったらすぐどこかにぶつかっちゃうような、園庭と呼んでいいんでしょうかね。なんかそんな感じが一番強かったです。この施策の考え方の③番にもあるように、毎日通うのが楽しい園舎ということで、これとっても大事なコンセプトだと思うんですけども、子供たちにとって本当に1日の大半を過ごす場所になっています。よく学校でも言われたんですけども、環境が人を育てると言いました。さらに昔から言われている三つ子の魂っていうのがありますけど、本当に就学以前の大事な、その子供たちが育つ時に、感性を育てるっていうのは一番大事だと思うんですね。それは本当に環境とか人間関係の中で育つものだと思います。そのような場をやっぱり子供たちに与えてあげるのが一番大事な、後の学校教育に繋がる大事なことかな、と考えました。そんなことがすごく感じられたことです。今回新しいイメージ図なんかも含めて案を出してくださいましたが、広々として子供たちにとってはすごくいい環境かなと感じました。

質問ですが、ただ将来の多賀小学校の児童数を考えると、今、どの学校もそうですが、子供たちが減少しております。小学校施設の空き教室等の利用による園整備なんてことは考えられないのでしょうか。

(教育委員会事務局長)

はい。あたみこども園の建設例を皆様ご承知の通り、小学校等の学校施設に乳幼児の保育を行うには、建築基準法等、消防法によって大きな規制がかかります。自ら歩いて逃げられない、ということもありますので、スプリンクラーの整備だとか、様々な屋内消火設備の整備だとか様々ありまして。そのため、あたみこども園でも約11億5,000万という大きな費用がかかりました。このためですね、学校施設の一部を改修するということは、学校の子供たちにも与える影響もございます。学校の工事中に小学校の児童の生活環境に大きく影響を与えるというのもありますので、あたみこども園の例を参考にしながら考えたときに、やはり今の多賀幼稚園舎というものを建て替えたほうが合理性があるのではと思っております。

(B委員)

少し関連して、その施設についてお聞きしたいんですが。工事期間中、多賀幼稚園児の保育場所を課題としていると先ほどありましたが、それはどのような解決方法を考えておられるのか。あわせて施設面で、このデザイン案、コンセプトがでましたけども、新たな施設においては、かなり園舎が平面立ってで広がりますけど、園庭の不足も考えられると思うんですけども、もしその施設全体の検討において、その可能性が高まったときにはどのようにするか、お考えがありましたらお聞かせください。

(教育委員会事務局長)

工事期間中の多賀幼稚園児の保育場所としましてはですね、その改築工事期間を先ほどの線表を見ていただくと約1年間程度予定しておりまして、その間につきましては3歳から5歳児なので小学校校舎を一部間借りして保育をした方が通園の利便性等を損な

わないのではないかと考えてます。このような計画が認められればですね、運営方法等の詳細については、今後学校や幼稚園と協議して詰めていきたいと考えています。またご質問の通り、現状敷地内で園庭というものが不足するという可能性もなくはありません。実際の設計に入った時に利用できない面積が出てくる可能性もありますので、その場合には平屋建ての園舎を考えていましたので、屋上園庭というものも考えられるのではないかと考えております。以上です。

(B委員)

ありがとうございます。子供たちが本当に伸び伸びと生活できる、遊んで過ごせる園になっていくといいなと思います。いろんな課題があるでしょうけども、子供にとってはどうなのかというところを一番に考えて欲しいです。以上です。

(A委員)

私も拝見して、保育園の中を実際に歩かせていただいて、まずぶつからずに歩くのが大変。そして、ちょうどやはり先ほどB委員おっしゃった通り、お昼どきにお邪魔したと思うんですけども、子供たちは食べるペースもいろいろあるようで、その子たちに、沿った食べ方をさせるためのスペースが必要だったりして、本当に手狭で、後から聞いてびっくりしたのが、先生方がお昼を食べる場所さえなく、玄関にお座りになって召し上がっているという、その現実を聞いてびっくりしました。あともう一つは、私たちの会議をさせていただいた場所をちょっと別室に設けたんですけども、そこに行くまでの扉が勝手に閉まってしまうというんですかね、押さえがきかない扉になってました。あんな重たい扉がそういうことでは、子供たちも怪我がとても心配だなと思って帰ってきたような感じでした。それを踏まえて、これはちょっと猶予がないのではないかと考えている次第です。

私からも2点質問させていただきたいんですけど、まず17ページの下の方の課題ですね、①にあるように、和田木会館から今回の提案では退出する、ということになります。これに伴いまして地元であります和田木とか網代の皆様への今後の空いてしまった跡地の利用方法などのご検討または説明、そしてあと和田木保育園に実際通っているお子さんたちの保護者の皆様へのご説明。今どういった段階なのかをまずお聞かせ願いたいと思います。

(教育委員会事務局長)

現在のところまだ計画をしていこうという段階なので、まだ地元関係者への説明等はしておりません。まずは両園の利用者等に対しまして、説明とご意見を伺いながら、その後、和田木会館の施設所有者の方や、地元への説明等をして、コンセンサスを得ながら進めていくものと考えております。今後そういったお話し合いが本格化していくのではないかと考えています。

(A委員)

ありがとうございます。もう1点ですけども、今回、先ほどご説明にもありましたように南熱海地区ではこれが設置できますと、こども園が1園、小学校1校、中学校1校というふうに教育の施設がこれで完全に揃うといいですか、そういった教育自治区になると思うんです。それを踏まえまして、今後この熱海市内、あとは泉地区、伊豆山

地区も含めまして、今後同じような計画というか、そういうものもこれから先考えていかれる、そういうことはあるのでしょうか、それをお聞かせください。

(教育長)

ありがとうございます。少子化が急激に進んでいる本市におきましては、やはり児童生徒の望ましい教育環境を保持していくということは教育委員会としてとても大事なものであるのは教育委員の皆様もご理解とご認識をいただいている、というふうに思っております。本市全体での望ましい教育環境の維持という観点からは、公立教育施設の統廃合を今後考えていかなきゃいけないというふうに思っております。これにつきましては将来を見通しての望ましい教育環境をしっかりと作っていく、ということを最適なものはどういったものか、ということについて今後皆様との意見交換や議論を通じて、進めて参りたいというふうに現状考えております。以上です。

(市長)

A委員は以上でよろしいですか。はい。今の件以外で、教育長からもありますでしょうか。

(教育長)

この、こども園について事務局からの説明もありました通り、そして委員の皆様からのお話もありました通り、南熱海にこの認定こども園を作っていくというこの案につきましては、ぜひともご理解をいただきながら進めていただければ、と思っております。子供たちの出生数を考えてみても、やはり今後80名弱の子供たちしか生まれてこないような現状がございますが、その子供たち、熱海の子供たち、宝物をしっかりと育てていく、その環境を整えて参りたいと思っておりますので、どうぞご理解をよろしくお願いいたします。

(市長)

私から質問です。この事業に対してまだ説明地元への説明がないということですので、地元等への説明はどんな意見が想定予想されますか。

(教育委員会事務局長)

はい。まずは和田木保育園の和田木会館からの退出に伴った、先ほど申しましたが跡利用についてはいろいろとご意見を頂戴するものと考えています。それが、市が例えば後にもう一度利用できるのか、あるいは違う人を紹介して使ってもらえるのかとか、いろんなお話し合いが必要だと思っております。そういったお話し合いは今後、この計画を進めていいよ、ということになれば、私たち教育委員会事務局の方で丁寧に進めていきたいと考えております。

(市長)

跡利用よりも前に、そもそも地元から保育園が移転するという事自体に対してはどんな声が予想されますか。

(教育委員会事務局長)

はい。現状で和田木地区、網代地区で和田木保育園へ入園されている方がいらっしゃいます。ただそういう方のみならず、下多賀、上多賀地区からも通園されてる方もいらっしゃいます。そこら辺が近くに保育所がなくなる、保育園がなくなるというところで

ご意見があると思いますが、今度新しく考えるものは、車や交通手段を使って、その多賀小学校の入口まで行けるような車寄せや駐車場を用意したいと思っていますので、利便性が大きく損なわれるというか、確かに通園にかかる時間が違いますのでそのご意見をいただきたいと思います。そこはやはりご説明をしてですね、和田木地区、網代地区からちょっと離れますが、小学校は多賀小学校に行くということもありますので、早い段階から幼小の連携とか、そういったメリットもお伝えしながら、ご理解を求めています。

(市長)

これまでの熱海中学校と多賀中学校、また網代小学校と多賀小学校の経緯を見ると、最初の一步、最初のボタンのかけ違い等々が非常にこういうことが起こる。そういうボタンのかけ違いが起こらない、ということが非常に大切なので、まだ具体的には地元説明入っていないわけですが、これは本当に最初が非常に大事なので、そこは本当に丁寧にやってもらうことが、非常に重要だというふうに自分は考えております。

今日委員の皆様、基本的には今の非常に条件の厳しい状況を考えて、これはぜひ進めたいという皆さん共通のご意見ですので、それを我々としても進めたいと考えているわけですが、まず地元の合意がなければこれは決して前に進められないので、そこを丁寧にやっていく必要があると思っています。

(C委員)

ご説明等いろいろありがとうございました。局長から駐車場の件でご説明いただいて、近隣で路上駐車とかで警察官の方から注意される現状もあるということで気にかかっていたところです。私からは今一度、それぞれ和田木保育園と多賀幼稚園の現状の躯体の性能についてお聞かせいただきたいです。関東大震災も100年を迎えて南海地震と大きい地震も近いと言われている中で、保護者の方も職員の方も含めて、不安を抱えて、現在保育されているのではないかな、というところがとても気になるところです。実際、津波の浸水地域でもありますし、避難をするにしても、子供たちを乗せて実際に施設から出るのかどうかっていう不安と、施設から出たとしても、ではどこに避難するのか、周りが決して高い建物があるわけでもなく、高い地域があるわけでもないの。そういった不安もあるので、現状として今一度、躯体の性能というのをお聞かせいただければと思います。

(教育委員会事務局長)

はい。ご指摘の和田木保育園につきましては昭和49年竣工ですので、約50年経過しております。多賀幼稚園は平成元年に就航竣工で35年経過しています。それぞれ現在の基準から見ますと、やはり躯体の持つ性能や設備等は不足していると言わざるを得ないと思います。また、先ほど委員からおっしゃられたように和田木保育園は駐車場がないので、お迎えのときに園の前の路上に車が止まってしまいます。そこで警察官の方に注意を受けたりすることもあります。そういった現在の保育施設等に求められる性能あるいは条件というものが、やはりちょっと足りなくなっているのは事実だと思っています。

(C委員)

そうですね不安というところではあるかと思います。実際にこうやって、新しい園舎ということでご検討いただいているんですが、新しい園舎になるのであれば病児病後児のケアというの、必要になってくるのかなってしっかり考えていただきたいなと思うんですけど。病児の方がいらっしゃるとお医者さんですとか、看護師の方とか、難しいことがあると思うんですけどそのあたりどのような感じでしょうか。

(教育委員会事務局長)

はい。病児病後児ケアということで、これはあたみこども園の建設時にも考えておりましたが、保育スペースの確保や、陰圧設備という、陽圧と陰圧があるんですが、陰圧設備が必要だと言う事、或いは看護師の配置などの理由より考えられませんでした。今回の計画においてはこのような施設要求や人的要求に応えられて、考えられるかを前向きに検討していく必要があると思います。委員おっしゃる通り、病児もしくは病後児の保育需要というのは、お母さん方が働きに出るとかそういったことで、大変お声をいただくところでもございますので、せめて南には何とかできないかな、というふうに思っております。

(C委員)

そうですね働く保護者の方を支援していただく、という面でお考えいただいて、非常にありがたいなと思います。

引き続き、すいませんこれは市長に、このように施設の統廃合を進めていくと、現存の施設の大規模リニューアル、例えば図書館ですとか、そういったところについて、どのようにお考えか教えていただければ。図書館ですとか、おそらく今一番施設として検討する部分かなと思われるので、市長がどのようにお考えか教えていただけると。

(市長)

図書館については東電のビルを使わせていただいて間借りをさせていただいておりますが、当面は今の契約を延長させていただきたいと思っております。少し将来の話でありますけれども、私の個人的な考えとしては、独立した図書館を持つというよりも、庁舎再編の、この周辺ですね、皆さん今日いるここの福祉センター自体も、もうかなり実は老朽化が進んでおります。その隣のいきいきプラザについてもそう遠くはない耐用年数になっております。また、上宿市有地もございます。ここの庁舎エリアの再編の中で、組み込むというかですね、個人的には私はそう考えております。どこかに独立して建てるというよりも、この敷地の中の建物の中に、入れ込みたいというふうに自分は考えております。市として最終決定したわけじゃなくて、私はそういう方向ではないかなと考えております。図書館、決して忘れておりませんので。いつもどうしたらいいかな、というのは考えております。

他にいかがでしょうか。はい。A委員、お願いします。

(A委員)

はい、お願いいたします。本日こちらの議題に上がりました塩浜学園等の視察に関して、本市でも小中一貫のものがそろそろ必要ではないか、ということとか、今の議題にありますこの南熱海こども園の建設に当たりまして、両方ともやはり少子化、人口の減少、先ほどの資料の中でもかなりショッキングな数字が出ておりますけれども、こうい

う現実を見るにつけ、両方ともあまり余裕のない、猶予のないことかと思いますが、特にこの南熱海こども園の方は、繰り返しになってしまいますけれど、実際に拝見した時にも肌で感じたことですが、本当に狭く老朽化も著しく、子供たちをそこに預ける保護者の皆様のお気持ちとか、働く人たち、そこで実際に子供たちを見てくださる職員の皆様たちのことを考えても、これを本当に猶予なく進めていただきたい。強く推したいと思うことでございます。

そして、先ほど市長おっしゃいましたけれども、和田木とか網代の皆様にご説明をさせていただいて、同意していただくっていうことは、教育委員会の事務局にお願いしたいことでもあります。説明を丁寧にとかそういうことをお願いしていきますけれども、同時に、やはりここまでの人口が減少してしまうことというのは、市としても打つ手がないものなのかとか、そういうことは多分日本中今どこでも考えることだと思いますが、特にこういう施設を新しく、子供たちが毎日通いたいような施設、それを作るということが、これからの人口が少しでも増えていく、そういうことに繋がっていくのではと期待するものであります。ですから、車の両輪ではありませんけれども、両方で横の繋がりを密にとっていただきながら、ぜひこれは強く進めていっていただきたい提案だと思っております。その点は市長はどのようにお考えかお聞かせ願いたいと思います。

(市長)

就任以来ですけれども、子供たちの教育環境のクオリティーを上げるということについては自分もそれなりに力を入れてきたつもりであります。教育のコンテンツはもちろんあるわけですが、まずハードウェア、行くことが楽しくなる施設という話もありましたけれども、これまでも具体的には、新しい熱海中学校、新生熱海中学校であったり、あとは当初の予算よりもかなり経費がかかりましたけれども、今西部地区にある第二小学校を活用した分離型のこども園であるとか、そういったところには、やっぱりハードがハードにも繋がりますので、そこは自分としては鋭意力を入れてきたつもりであります。ですので、今後とも子供たちの教育、あとは就学前の教育保育についてもよい環境を育てるということは、それは一つ人口増加策の、増加というか低減にブレーキをかける最低限のことだとは思っております。それだけで解決するわけではありませんけれども、それについてはこれからも、引き続き力を入れていきたいと思ひますし、そういった意味で今回の南熱海の施設の再編っていうのは、また大きな次の大きなテーマだと思います。

(B 委員)

南熱海の幼少中の連携ということでお聞きします。多賀小学校の経営書にもうたわれてるんですけれども、南熱海幼小中の連携が大事だということが書かれております。熱海市は、以前から小中の連携ということに力を入れてきて、どこの地域でもかなりの取り組みをやられております。南熱海につきましても、幼も混ぜてということ以前も考えましたが、なかなか難しいところがありました。このように就学前児童施設が小学校と隣接することになると、その利点はかなり大きいと考えています。そうすると、これまでの多賀幼稚園児と一年生の交流だけでなく、保育をまぜた子供たちの交流、あるいは教員研修なども可能となると考えられますけれども、その南熱海幼小中の連携について

は、何かお考えがありましたらお聞かせください。

(教育委員会事務局長)

はい。いわゆる巷で言われております小一プロブレムというのがあります。小学校1年になったときにそこに壁がある、小一の壁とも言われますが、そういったものについての解消に向けては各学校で、幼保小、学童等、教育の連携、連続性を重視していく必要があると考えております。またそれぞれのあり方、対応を踏まえて意見を出し合うなど、子供たちの交流事業だけでなく、先生方、教員の皆さんと保育士の皆様、保育教員の皆さんとの合同の研修や交流の場、そういったものの創設というか、それを作ることでも地域で育つ子供たちのためには必要かつ不可欠なものかなとも思っています。

これまでも各学校において連携していただいていたんですが、今後はこども園ができることで保育部、いわゆる保育園の方の和田木保育園の方であった保育部もまぜた教員研修等をやっていってもらうことで、きちんと就学前児童の施設と義務教育施設、あるいは義務教育段階への接続がスムーズになるように、教育委員会においてもきちんと支援していこうと考えております。

(市長)

他にいかがでしょうか。

それでは本日予定をしておりました議事はすべて終了をいたしました。意見交換をさせていただきまして誠にありがとうございます。その他何か委員の方からご意見等ございますでしょうか。

では、特にないということですので、事務局から何かありますか。

(事務局)

特にございません。

(市長)

はい。それでは以上で令和6年度第1回熱海市総合教育会議を終了させていただきます。長時間にわたりありがとうございました。

(4) 閉会

終了 16 : 20